

6

コレクション オーディオガイド

美術館初心者の鑑賞学習を支援するため、2020年度より所蔵品の音声ガイドを作成・公開している。昨年度までに、A解説（一般的な解説）43本、B解説（目の見えない／見えにくい方の利用を想定し、作品を言葉で記述した解説）18本を公開した。今年度は、A解説14本とB解説2本を追加制作した。また、新たに作品以外の解説として、美術館の施設に関するトピック3本を加えた。

公開日：2026年2月下旬
掲載先：三重県立美術館ウェブサイト
ガイド数：計19本



コレクション オーディオガイドのページ

実行委員会構成：

- 三重県立美術館(中核館)
- 三重県障がい者芸術文化活動支援センター(公益社団法人三重県障害者団体連合会)
- 公益財団法人三重県文化振興事業団
- 三重県立美術館ボランティア「樺の会」
- 三重県子ども・福祉部地域福祉課

謝辞：

令和7年度の事業を実施するにあたり
多大なご協力をいただいた関係諸機関、関係者の方々、および
ここにお名前を記すことを控えさせていただいた方々に
深く感謝の意を表します。
(五十音順、敬称略)

いなべ市ひきこもり相談支援センター 瑠璃庵
Kuwa.Kusu(桑田知明、楠麻耶)
三重県自閉症協会

- 下村雄三
- 高尾戸美
- 高橋裕二
- 半田こづえ
- 松原豊
- 宮坂慎司
- 森井一鷹

令和7年度
「美術館がつなぐ共生社会推進事業」報告リーフレット
執筆・編集：村上敬、鈴村麻里子(三重県立美術館学芸普及課)
デザイン：溝田尚子
印刷：株式会社アイブレン
発行：美術館がつなぐ共生社会推進事業実行委員会
(三重県立美術館内)
〒514-0007 三重県津市大谷町11番地
TEL.059-227-2100 / FAX.059-223-0570
発行日：2026年2月20日

報告書オンライン版 URL
<https://www.bunka.pref.mie.lg.jp/art-museum/000307073.htm>
より詳しい情報はこちらから

QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です。

美術館が つなぐ 共生社会 推進事業

報告リーフレット

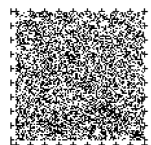
三重県立美術館は、「誰もが利用しやすい環境づくり」を活動指針の第一に掲げています。
(「三重県立美術館のめざすこと」2018年策定)

2020年度より、これを継続的的事业として本格化し、2024年度からは、その歩みを進め、誰もが自分らしく生きられる共生社会の推進を目指した新事業を展開しています。

新事業2年目となる2025年度は、多様な方々が主役となって参画できる事業基盤を整えるため、当事者のニーズに沿ったプログラムの企画と教材の開発を行いました。

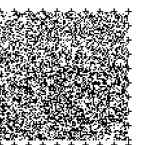
(助成期間：2025年5月19日-2026年2月28日)

このコードは文字情報をおさめた「音声コード」です。
読み取りには専用アプリ「Uni-Voice」または「Uni-Voice Blind」のダウンロードが必要です。
裏表紙の右下にはQRコードを掲載しています。
報告書オンライン版はそちらを読み取ってご覧ください。



令和7年度 文化庁 Innovate MUSEUM 事業

©2025 美術館がつなぐ共生社会推進事業実行委員会
無断転載・複製を禁じます。



1

彫刻をさわって鑑賞する ワークショップ

美術館の職員・スタッフを対象に、「さわる鑑賞」の研修会を開催した。柳原義達作品の「さわる展示」を実施するなかで、スタッフから「具体的な触れ方がわからない」といった声が上がったため、さわる展示を長年研究されている専門家を講師に迎え、触察による鑑賞と視覚による鑑賞の違いを実践的に学んだ。グループワークでは参加者同士の意見交換が行われ、来館者へのよりよいアプローチ方法など、今後の館運営に活かすヒントを見つける機会となった。

日時：2025年12月8日(月)

①午前の部 9:30-11:20 ②午後の部 13:10-14:50

③座談会 15:00-16:30

会場：三重県立美術館 柳原義達記念館、美術体験室

講師：半田こづえ(明治学院大学非常勤講師)、宮坂慎司(筑波大学芸術系准教授)

参加者数：①13名 ②15名 ③15名



実施風景
撮影：松原豊

2

「やさしい日本語」を使ったコレクション展示 「洋画のきほん」

「やさしい日本語(外国人等にもわかるように配慮して、簡単にした日本語)」を導入したコレクション展示を開催。この導入にあたっては、昨年度より、職員・スタッフ向けの講座の実施や、事例調査の継続など、着実に準備を進めてきた。三重県では県民の約26人に1人が外国人という現状にあるが、本展では、外国人のみならず、子どもや高齢者、障がいのある方など、多様な来館者が鑑賞を楽しめる環境を整えた。

日時：2025年12月23日(火)～2026年3月29日(日)

会場：三重県立美術館 2階常設展示室2、3室



実施風景
撮影：松原豊

「やさしい日本語」の研修会

3

当館学芸員を対象とした研修会。「やさしい日本語」を使ったコレクション展示「洋画のきほん」で使用した解説文へのフィードバックとして実施。解説執筆、展示企画を経て得られた気づきや、来館者アンケート等を参照し、改善点や今後の事業展開について講師と学芸員とで意見交換を行った。また、美術館利用者向けの「やさしい日本語」によるガイドリーフレットの作成について、講師から助言を得た。

日時：2026年1月29日(木)14:00-15:30、30日(金)10:30-12:00

会場：三重県立美術館 2階常設展示室2、3室、美術体験室

講師：高尾戸美(合同会社マープルワークショップ代表、國學院大学兼任講師)

ひきこもり支援センターと協働した ワークショップ

4

美術館に来館しづらい非利用者に向けたワークショップキットの開発。コレクションを活用したキットを作成し、ひきこもり支援センターのスタッフが当事者の自宅訪問時に配布、制作後の作品を回収してセンター内に展示していく。この一連の交流を通じて、自宅にしながらセンターや地域住民、デザイナー、美術館とつながる仕組みを構築する。今年度は「実験回」として実施し、将来的に多様な利用者に向けたツールの開発を目指す。

企画支援：いなべ市ひきこもり支援センター 瑠璃庵、デザインユニット Kuwa.Kusu

情報保障付きプログラム (「ポップ・アート 時代を変えた4人」展 スライドトーク)

5

参加者のリクエストに応じて情報保障をするのではなく、当初より「手話通訳・要約筆記付き」で計画したプログラム。耳の聞こえない/聞こえにくい人を主な対象とし、作品画像を投影するスクリーンの横で、手話通訳とパソコンによる要約筆記を行った。

日時：2025年12月20日(土) 14:00-14:30

会場：三重県立美術館講堂 講師：坂本龍太(同館 学芸員)

参加者数：56名

